

会長あいさつ 同窓会の意義

会長 仁科和晴

- 母校への寄付 ● 後輩へのアドバイス
- 同窓会を通じてより多くの友を得、相互親睦を深める。

以上の同窓会の意義に対して、名簿作成はきわめて重要な作業です。五年に一度名簿を出すというガイドラインに基づいて、今年から来春にかけていよいよ名簿作成の作業にとりかかります。歴史ある学校でもりっぱな名簿をもっているところと、そのようなものが全くないところといろいろあると聞きました。

名簿の充実とは各期理事の継続的な努力が重要であり、一度ダメになってしまってからやり直すのは至難の技です。

名簿作成用のハガキは必ず出すよう同窓生全員にお願いします。

これを編集する理事の方々には寒い季節に何回か集まってもらうが大変ですが何卒よろしくお願い致します。

さて沼津高専の同窓会は先輩が作った骨組みに肉付けしているところです。一期生でもまだ三十五才と若く会社の中でも一番よく働いている年令なだけに同窓会の活動まで手が回らないケースも多いと思います。

しかし見方によればこのような状態は非常に価値ある過程であると思います。種々の企業にいる若者が仕事とか組合というのとは別の立場で顔を合わせる機会があるというだけでも大変意義深いです。

このような集まりの輪を理事にとどまらず全体に広げる為、支部組織の充実も重要です。同窓会の意義を認めた熱意ある人々により各地区に支部が芽生えたり、既にある支部が生長することを願っています。今後いろいろな形で各地区の方々と連絡をとりますがよろしくお願いします。

尚学校の先生方、事務の方々には平素より種々御協力をいただきありがとうございます。

今後共よろしくお願い致します。

総 会 報 告

事務長 坂井徳尚

昭和56年11月8日(日)母校寮食堂において、昭和56年度同窓会総会が行われました。

来賓4名、同窓生118名、樋口名誉会長をはじめとする教職員の方々に御出席をいただき、総勢約160名になりました。午後1時すぎ柘植(M3)の司会により始まりました。開会の辞 望月前会長(M3)、仁科会長(M2)あいさつのおと、議長団には、議長塩川(M3)、副議長北川(M3)、書記川崎(M9)が選出され、議事に入りました。まず、仁科会長より昭和54年度、55年度の活動報告、坂井事務長より昭和54年度、55年度の決算報告がなされたあと名倉監事(M2)より会計監査報告がありました。

質疑応答のち昭和54年度、55年度の決算報告は圧倒的多数により承認されました。

続きまして、会長より昭和56年度活動方針及び、中間報告があり事務長より56年度予算案が提案され承認されました。その後、昭和57年度、58年度、次期三役の選出に入り、近藤副会長より新会長に漆畑豊(E1)、副会長に金田友義(M2)、事務長に小瀬仁(C8)が推薦され、満場一致で三君がそれぞれ選出されました。そして漆畑新会長、小瀬新事務長の挨拶があった後、議事はすべて終了し、議長団は解任されました。

その後、昭和54年度、55年度、56年度同窓会顧問教官が、小川前事務長より紹介され、近藤副会長の閉会の辞により、無事に総会は終了致しました。引き続きまして、若さあふれるE14の黒沢、林両君の司会進行のもとに懇親会に移りました。樋口名誉会長の挨拶、来賓の近藤先生の祝辞の後、伊藤事務部長より学校あげてのな一層の同窓会支援という暖かいお言葉をいただきました。同窓会役員一同心強さとともに、心暖まる思いがいたしました。ありがとうございます。HSKの長谷川(M1)さんの音頭にて乾杯、歓談となり岡田先生、沢田先生の返信用ハガキの近況報告、さらに来賓の深尾先生、朝比奈先生、安土先生及び教職員の方々にスピーチをしていただきました。出席した会員諸兄も恩師の方々や旧友との久しぶりの再会に話がはずみ飲みかつ食べ楽しい一時をすごすことができました。最後に恒例の近藤副会長の一人ブラスバンドの伴奏により校歌斉唱、漆畑新会長の音頭による万才三唱にてめでたく閉会いたしました。なお当日都合により出席できませんでしたが、木戸先生より祝電が届いておりますので懇親会同様御披露させていただきます。「今ここに我学び舎の19年、沼津の富士はいよいよ輝く」御発展を祈る。

木戸義一
最後に理事をはじめとし、顧問教官、職員の皆様御協力ありがとうございました。

***** 来賓の先生方を応待して *****

M1 伊達忠昭

前回迄の総会では来賓の先生方の接待が不十分である、との批判を受けていましたので、今回は汚名挽回の為、丁寧なる応待をする様配慮しました。

今年の総会には近藤先生、深尾先生、朝比奈先生、安土先生が出席して下さいました。

当日は理事の中から1期の鈴木、島村、伊達の3名を接待役に専念する事とし、顧問の大橋先生、柳瀬先生、小松先生の協力を得て計6名で応待しました。

玄関には同窓会専用の受付を置き、控室としては学校長の応接室を借用して、特別注文の昼食をとりながらゆったりと歓談していただきました。

途中からは樋口校長、市川先生、同窓会三役、総会議長の塩川君も加わってにぎやかになりました。

事務長の巧みな司会で先生方のお元気そうな近況を聞かせていただき、更に、20周年記念行事の話や、高専卒業者の特徴、或いは母校の教育のあり方に対する要望等、建設的な話題に花が咲きました。

続いて懇親会の会場へ移って、出席した会員達と親しく懇談していただきました。

来賓の先生方、いかがでしたでしょうか。

同窓会役員一同、次からも満足いただける様な応待を致すつもりであります。

今年見えなかった先生方も是非御臨席いただく様願っています。

最後に、接待に御協力いただいた事務官の杉本さんありがとうございました。

昭和54年度運営会計経費収支決算報告

拠出収入

科 目	決算額	予算額	比 較
終 身 会 費	1,600,000	1,600,000	0
受 取 利 息	110,091	150,000	△ 39,909
雑 収 入	5,100	0	5,100
合 計	1,715,191	1,750,000	△ 34,809

経費支出

科 目	決算額	予算額	比 較
会 議 費	36,284	150,000	113,716
通 信 費	259,620	300,000	40,380
事 務 用 品 費	28,284	30,000	1,716
慶 弔 費	50,000	100,000	50,000
名 簿 追 補 版	286,000	250,000	△ 36,000
同 窓 会 だ よ り	96,000	100,000	4,000
印 刷 費	45,000	100,000	55,000
郵 便 振 替 料 金	420	10,000	9,580
支 部 交 付 金	0	30,000	30,000
減 価 償 却 費	2,158	0	△ 2,158
総 会 懇 親 会 特 別 会 計	50,000	50,000	0
雑 費	13,000	100,000	87,000
旅 費 交 通 費	0	10,000	10,000
新 聞 函 書 費	0	20,000	20,000
予 備 費		500,000	
当 期 剩 余 金	848,425		△ 348,425
合 計	1,715,191	1,750,000	34,809

昭和54年度貸借対照表 (昭和55年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
現 金	20,525	借 入 金	900,000
郵 便 振 替	729,745	前 受 金	1,210,000
銀行普通預金	3,064,312	仮 受 金	20,000
銀行定期預金	2,914,900	什 器 備 品 基 金	15,269
未 収 金 (未納終身会費)	3,890,000	減 価 償 却 引 当 金	23,231
什 器 備 品	15,269	名 簿 特 別 会 計 剩 余 金	0
合 計	10,634,751	剩 余 金	8,466,251
		合 計	10,634,751

昭和55年度運営会計経費収支決算報告

拠出収入

科 目	決算額	予算額	比 較
終 身 会 費	1,370,000	1,370,000	0
受 取 利 息	120,333	150,000	△ 29,667
名 簿 売 上	2,000	1,000	1,000
合 計	1,492,333	1,521,000	△ 28,667

経費支出

科 目	決算額	予算額	比 較
会 議 費	191,742	200,000	8,258
通 信 費	262,322	300,000	37,678
事 務 用 品 費	4,270	30,000	25,730
慶 弔 費	56,000	100,000	44,000
同 窓 会 誌	462,500	500,000	37,500
印 刷 費	35,000	100,000	65,000
郵 便 振 替 料 金	6,095	10,000	3,905
減 価 償 却 費	1,771	1,000	△ 771
雑 費	6,850	100,000	93,150
予 備 費		180,000	
当 期 剩 余 金	465,783		△ 285,783
合 計	1,492,333	1,521,000	28,667

昭和55年度貸借対照表 (昭和56年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
現 金	96,661	借 入 金	400,000
郵 便 振 替	1,968,650	前 受 金	1,230,000
郵 便 貯 金	3,000,000	仮 受 金	214,000
銀行普通預金	705,725	什 器 備 品 基 金	13,498
銀行定期預金	1,540,000	減 価 償 却 引 当 金	25,002
未 収 金	3,490,000	未 収 金 引 当 金	3,490,000
什 器 備 品	13,498	剩 余 金	5,442,034
合 計	10,814,534	合 計	10,814,534



監 査 報 告

厳正なる監査の結果、会計帳簿は正確かつ明確に記帳されており、収入・支出とも適正で、昭和54年度、55年度収支決算報告書及び貸借対照表の記載に相違ないことを認めます。

昭和56年11月5日

監事 名 倉 光 雄 (M2)
飯 田 裕 敏 (M4)

昭和56年度運営会計経費収支予算

拠出収入

科 目	予 算 額
終 身 会 費	1,440,000
受 取 利 息	150,000
雑 収 入	1,000
合 計	1,591,000

経費支出

科 目	予 算 額
会 議 費	250,000
通 信 費	400,000
事 務 用 品 費	30,000
慶 弔 費	100,000
同 窓 会 だ よ り	100,000
印 刷 費	100,000
郵 便 振 替 料 金	15,000
支 部 交 付 金	150,000
減 価 償 却 費	1,000
総 会 懇 親 会 特 別 会 計	50,000
雑 費	100,000
子 備 費	295,000
合 計	1,591,000

昭和54年度名簿特別会計

科 目	決 算 額
昭和53年度剰余金	△959,190
昭和54年度売 上	2,000
剰余金にて相殺	957,190
昭和54年度剰余金	0

昭和57年度及び58年度同窓会三役改選

現三役の任期が、昭和57年3月31日で満了になるのに伴い、会則5章第8条により、下記の方々を理事会において選出し、昭和56年11月8日の総会で満場一致の承認を得ました。新三役は、2年間、更に一層同窓会の発展を推進していただくよう、会員一同の御協力をお願いいたします。

記

新 会 長 漆 畑 豊 (E1)
 新 副 会 長 金 田 友 義 (M2)
 新 事 務 長 小 瀬 仁 (C8)

昭和56年度同窓会総会懇親会会計報告

拠出収入

総 会 費	50,000円	(運営会計より繰入)
懇 親 会 費	354,000円	(3,000円×118名)
御 祝 儀	23,000円	
合 計	427,000円	

経費支出

オ ー ド ブ ル	357,500円	
飲 物	45,790円	
そ の 他	10,420円	
剰 余 金	13,290円	(運営会計へ繰入)
合 計	427,000円	

新 会 長 あ い さ つ

E1 漆 畑 豊

「皆様こんにちは」電気一期の漆畑です。会員諸兄においてはますますご健闘のことと存じます。高度成長時代に金の卵としてむかえられたあの一期卒業生もまさに中堅の年齢に達し、自他共に第一線の戦士として、ご活躍のことと思います。さて、幸か不幸か次期同窓会々長の大役に私にやれということで、先の総会に於いて承認されてしまいました。他に適任者が何人もいる中で私にそのおはちが廻ってきた事は、どこでどうなったのか今だに不明です。学生時代の私を知っている人はまさにそう思われていることでしょう。現会長の仁科君の巧妙な話術とその周囲からの圧力(これも今から思うと三役の仕組んだ作戦?)に屈し、まんまとその術中にはまってしまう結果だと考えます。あるいは今まで同窓会に対して無関心で傍観者をきめこんでいたものへのバツか?今はそのことの重大さにいささか困惑しております。住いが母校に近い(沼津市大岡日吉)ので何かあればすぐ出向いて行かれるということと、たまたま母校創立20周年記念(このことはあとでのべます)の同窓会実行委員長をおおせつかっている関係からの人選のようです。(仁科会長の談)幸い副会長にM2の金田君、事務長にC8の小瀬君というファイトある人を選出いただき、まずひと安心といったところです。私なりに「同窓会」というものを考えてみると、同窓会の仕事といえはある意味での事務処理(新会員の受入、会員名簿の追補訂正、会誌等の発行、形式的(?)な総会等々)といっても過言でないと思います。ただこの事が今日会員数2000余名を数えるに至り、会員が増えれば増えるほど大変な仕事でありかつ重要な作業であると思います。同窓会組織が確立しているか否か、活発であるか否かは、この会員の消息所在がはっきりしているか否かにあると思います。他に、財政的な問題、支部組織の問題等々「同窓会」というものを評価するものはあろうかと思いますが、何をすることもその基幹となすものは同窓会会員の所在をいかに把握しているかにつきると考えます。青春の5年間で共にすごした同胞を、あの小林の丘で過ごした日々を懐かしく思わないはずがありませんその懐かしさをよび起す役目まさに同窓会の目的ではなからうか。幸い来年(S57)は母校創立20周年を迎え秋にはその記念行事も同窓会共催のもとで開かれることは皆様すでにご存知のことと思います。又同窓会としても15年目にあたり、現三役のもとで名簿の改訂作業にはいっていると聞いております。まさに同窓会組織を今以上に確固たるものにするこれ以上の機会はないと考えます。

次期同窓会運営をどのようにしていくかは今後十分勉強し、歴代の役員、学校関係者に相談しながら頑張っていきたいと思ひます。

ここで母校創立20周年についてふれますと「20周年記念」という考え方、そのいきさつ等は、同窓会誌9号に同窓会顧問教官である市川先生よりくわしくのべられておりますので省略します。

実は、仁科会長より、沼津近隣の第1期生を中心に召集がかりその席上(多少アルコールも用意されてました)「20周年を同窓会としてどう対応していたらよいだろうか…」と相談を受けた事がありました。

『20周年も出来ない同窓会でどうするのだ!!』『20万や300万の金が集められないで、どうするのだ!!』等々だれからともなく意見が出されました。中でも一番脅迫じみたことを言ったのが私だったようで、それではおまえが金集めの責任者になれ!!との事で20周年記念の同窓会実行委員長をおおせつかった次第です。

すでに概文にて御案内のとうり、創立20周年記念経費の同窓会拠出金分について全会員から1口5,000円(何口でも可)の募金を致しております。

親愛なる沼津高専同窓会の会員の皆様「沼津高専ここにあり」という力(財力?)を結集し、母校の輝かしい歴史の20年となるようこの20周年に向け全員が結集しようではありませんか!!

以上
11/末現在の拠出金結集状況は拠出金予定額の半分にもみたくありません、どうぞ会員のみなさん職場内、近隣の同窓生にひと声かけていただきまして、この主旨を理解されご協力下さるようお願い致します。

尚、募金の送り先は

沼津工業高等専門学校 教務係気付
沼津高専 同窓会 係

(送金に際して、卒業年次、科別及び口数を明記して下さい。)

副会長就任にあたって

M2 金田友義

静岡市在住、清水市小糸製作所(株)勤務の私ですが今回沼津地区以外から副会長に就任させて頂く事になりました。

漆畑会長の「二十周年イコール長い将来の為の一節の礎」論に呼応する者であります。しかしながら遠地ハンディと微力な私ゆえに静清地区及び陸上部OB会の方々そして多くの同

窓生諸兄に御迷惑を掛ける事も多いと思ひます。これからは会長、事務長と一致協力して重責を任期完了までつつがなく過ごせる様に最善の努力を尽くしたいと思ひます。つきましては、どうぞ御協力、御鞭撻宣敷く御願ひ申し上げます。

昭和56年11月28日

事務長就任にあたって

C8 小瀬仁

卒業してはや三年余の現在、在学中に学んだ知識と経験を生かし、病院の医療業務に日々精進しております。

今回、図らずも同窓会事務長を拝命しその責任の重さを、ひしひしと感じている次第であります。非力ながら全力を打ち込んで取り組む覚悟で居りますのでよろしくお願いいたします。

最後に母校の20周年にさいし益々の発展を願う次第であります。



創立20周年記念同窓会名簿 発行のおしらせ

事務長 坂井徳尚

昭和57年8月完成を目ざし現在、小川名簿作成委員長(E5)の指揮のもと、理事の方々の御協力により同窓会名簿の原稿の整理に入っております。

住所、勤務先、電話番号等変更の方又は変更していない方も確認の為に返信用ハガキ(名簿用)を送り返して下さい。

もしも返信用ハガキがない方は普通のハガキでも結構ですので御連絡下さい。

なお理事の方々が皆様方に住所不明者等の発見の為御連絡する機会も多くなると思ひますがその際には是非暖かい御協力の程よろしく御願ひ申し上げます。

住所不明者が1人でも少ない名簿が出来ますよう役員一同精一杯努力する所存ですのでよろしくお願い致します。

沼津高専創立20周年記念拠出金中間報告 (昭和56年12月5日現在)

人数	230名
拠出金額	1,340,000円

昭和56年度 就職状況について

学生主事 佐々木俊夫

最近の傾向として、売手市場、青田狩が続いているのは変わりなく、他高専では安定大企業へ行かずに、Uターンが多いのに反し、本校では安定大企業へ内定が多く一、二名の特例をのぞき、早々と全員内定と言う状況で大変喜ばしく思っています。ただ、大学編入者の増加によって、数字の上での満杯は、就職希望者の減少で保たれているのでは、大変であるし、就職試験の結果、少数だが2次志望3次志望に回る者があることも心配である。

企業の求人条件に甘えて、学力、能力、気力が低下したのでは、同窓会の諸兄に大変申し訳がない。学校も学生の質の低下の極力少ないよう、努力しますが、先輩諸君も、新入後輩の指導に、在校生の善導に、御高配を願いたい。



昭和56年3月卒業生に対する求人及び主な進路

昭和56年3月

沼津工業高等専門学校

学科名	卒業予定者数	進学者数		自営	就職希望者数	就職内定者数	内定率	求人件数	求人数	求人倍率	備考
		決定	未定								
機械工学科	名75	名11	名2	名1	名61	名61	%100	社514	名904	%14.8	静岡大学大3名 豊橋技科大6名 長岡技科大1名 東京農工大1名
電気工学科	36	7	0	0	29	29	100	514	917	31.6	静岡大学大2名 豊橋技科大2名 長岡技科大1名 東京農工大1名 各種学校1名
工業化学科	33	10	1	0	22	22	100	213	386	17.5	静岡大学大3名 豊橋技科大4名 長岡技科大1名 東京農工大1名 広島大学1名
合計	144	28	3	1	112	112	100	1,241	2,207	19.7	静岡大学大8名 豊橋技科大12名 長岡技科大4名 東京農工大2名 東京農工大1名 広島大学1名 各種学校1名

主な就職先 ※機械工学科：富士通・日産自動車・本田技研工業・東芝機械・日立製作所・中部電力・シャープ・ソニー…等
 ※電気工学科：富士通・日立製作所・東芝機械・日本電気・東京電力・中部電力・日本ビクター・ソニー……等
 ※工業化学科：富士通・旭化成・三菱化成・小西六・トヨタ自動車・リコー・ミノルタカメラ・静岡ガス……等

昭和57年3月卒業予定者の求人状況

昭和56年11月2日現在

沼津工業高等専門学校

学科名	卒業予定者数	進学者数		自営	就職希望者数	就職内定者数	内定率	求人件数	求人数	求人倍率	備考
		決定	希望								
機械工学科	名71	名10	名0	名0	名61	名51	%83.6	社540	名610	名10.00	静岡大学大5名 豊橋技科大4名 長岡技科大1名
電気工学科	37	9	1	0	27	22	81.5	512	584	21.63	静岡大学大4名 豊橋技科大2名 長岡技科大1名 徳島大学1名 三重大学1名
工業化学科	43	10	0	1	32	31	96.9	260	273	8.53	静岡大学大2名 豊橋技科大3名 長岡技科大4名 東京大学1名
合計	151	29	1	1	120	104	86.6	1,312	1,467	12.22	静岡大学大11名 豊橋技科大9名 長岡技科大6名 徳島大学1名 三重大学1名 東京大学1名

第19回東海地区国立高等専門学校体育大会

総合成績表

種目	順位	優勝	2位	3位	
陸上競技		鈴鹿高専	豊田高専	鳥羽商船	
軟式庭球	団体の部	岐阜高専	沼津高専	鈴鹿高専	
	個人の部	福井・最川(岐阜)	委田・小川(岐阜)	南部・東(鳥羽)	
サッカー		岐阜高専	豊田高専	沼津高専	
弓道	団体の部	鈴鹿高専	沼津高専	豊田高専	
	個人の部	山本(沼津)	竹井(豊田)	沢瀬(鈴鹿)	
体操	団体の部	沼津高専	豊田高専	鈴鹿高専	
	個人の部	床運動	山口(沼津)	藤岡(鈴鹿)	石代(豊田)
		跳馬	山口(沼津)	石代(豊田)	山中(豊田)
硬式庭球	団体の部	鈴鹿高専	豊田高専	沼津高専	
	個人の部	ダブルス	宿島(沼津) 奈良岡	望月(沼津) 笠井	佐藤(豊田) 清水
		シングルス	佐藤(豊田)	村田(鈴鹿)	宿島(沼津)
ハンドボール		岐阜高専	鳥羽商船	沼津高専	
卓球	団体の部	豊田高専	岐阜商船	鈴鹿高専	
	個人の部	ダブルス	阪口(岐阜) 山崎	洞口(豊田) 油屋	小林(鈴鹿) 中島
		シングルス	阪口(岐阜)	山崎(岐阜)	中島(鈴鹿)
水泳競技		沼津高専	岐阜高専	豊田高専	
剣道	団体の部	全国大会予選	鈴鹿高専	豊田高専	岐阜高専
	個人の部	勝抜戦	鈴鹿高専	豊田高専	沼津高専
バスケットボール	団体の部	勝抜戦	鈴鹿高専	豊田高専	沼津高専
	個人の部	個人戦の部	前田(鈴鹿)	玉泉(鈴鹿)	久名木(豊田) 和田(鈴鹿)
硬式野球		豊田高専	岐阜商船	沼津高専・鈴鹿高専	
柔道	団体の部	全国大会予選	鈴鹿高専	鳥羽商船	岐阜高専
		勝抜戦	鈴鹿高専	岐阜高専	鳥羽商船
	個人の部	軽量級	油屋(豊田)	藪(鈴鹿)	
		中量級	大原(鳥羽)	森谷(鈴鹿)	
重量級	荒生(豊田)	河村(鈴鹿)			
バレーボール		豊田高専	鈴鹿高専	岐阜高専	
ラグビー・フットボール		岐阜高専	鈴鹿高専	沼津高専	

慶弔報告

梅原先生を偲んで

美土路隆治

先生が入院されたことは、高専祭のはじまる2・3日前のこと、私も御見舞いに出かけようと思っていたところ、急に亡くなられたことを聞き、ただ驚くばかりでした。入院される10日程前に、沼津のギャラリーほさかで行われた市内の退職校長会による展覧会で、お会いし、その時は本校におられた頃よりも元気そうで、東北旅行に出かけたときの写真を、とても楽しそうに説明されていたことを考えると、先生が亡くなられたことをすぐには信じられない気持ちでした。

在職中は寮監として、全寮制の基礎をきづくことに尽力され、多くの在校生や卒業生に多くの影響を与えたのではないのでしょうか。

先生の人生感を直接お聞きすることは出来なかったのですが、在職中の仕事ぶりから考えると、ぴしっと一分のすきもない完璧さであることのように、このことは11月10日におこなわれた告別式に参列して、多くの方々の弔辞のなかにあらわれていました。

先生の御冥福をお祈りします。

お悔みの詞 組岡辰三先生へ

私達の知っている先生は、病気ということは考えられなかった。それが訃報となって事務局に入り驚いた。

常日頃から病気がちであるとかのお話しも風聞もなくご壮健で学内生活のように相変わらず勉強にうちこんで居られるとのみ思っていただけに大きな響で聴いた。

先生は、長いこと静岡県の機械工業試験場長として勤められて、各企業の技術指導をされてこれ、当三島地区の風土をことのほか好まれ、沼津高専創立にあたり、土井静雄校長に推挙されて機械工学科教授として赴任されて、そなわった識見を発揮され、技術者教育の指導に心血を注がれてきました。

先生のご指導は、明治人らしい風格と、気骨で一本筋の通った重厚さで導いた姿は、鑑として残って居ります。

先生の足下におられ薫陶を受けられて育った学生達は、今立派な技術者となって、産業界第一線で活躍し、社会に貢献しているお話しが伝わって来ます。

定年でご退官されてからは、技術士として生産工学の道で工業界で敏腕もふるわれておられ、仲々お忙しいようでした。

ご生前二年位前、偶然街角でお会いしました。在職当時の懐かしいお話しや、又静岡県将来の展望について、潮流発電に関する具体例等、の論文が、秀論として県知事表彰があったとか、これからは、教職がどの位重要な職務であるかのお話しもあり、再会の時は云々してお別れした

在職期間、先生の築かれた礎にもとづいて、沼津高専が愈々飛翔して行くのが何よりの供養ではないでしょうか。深くご冥福をお祈り申します。

合掌

(追) 過日内閣より、正五位勲四等旭日小綬章の授与がありました。